

秋保大滝植物園だより No.21 涼しげな羊歯(シダ)号

園内に咲く四季折々の花や色とりどりの実、季節を告げる生きものなどの自然の情報を、季節をおつてお届けします。
 今回は園内で見られる羊歯(シダ)です。初夏から初秋には、羊歯(30種ほど)の鉢植え展示も行っています。
 尚、バックナンバーは(公財)仙台市公園緑地協会ホームページ「杜のひろば」よりダウンロードできます。



イヌガンソク【犬雁足】 イワデンダ科
 園内では、シャクナゲ園外周の石組み
 近くに多く自生している。栄養葉は大型。
 胞子葉(写真茶褐色の葉)は、秋
 から冬に熟し、春に胞子を散らす。



イヌワラビ【犬蕨】 イワデンダ科
 園内の林下や道端に普通に自生している。
 変異が多くニシキシダもそのひとつ。
 地中を這う根茎で増える。



イワヒバ【岩檜葉】 (イワマツ)
 イワヒバ科 岸壁や岩上に着生し、耐乾
 性が強い。ヒバの葉に似ている。園内
 ではシャクナゲ園中央広場の北側の大
 岩と、小さな高山区に着生している



オシダ【雄羊歯】 オシダ科
 園内の杉林内に多く自生してい
 る。葉は漏斗状に開くのが特徴。
 園内の羊歯の中では一番大型にな
 る。



ゼンマイ【薇】 ゼンマイ科
 葉は栄養葉と胞子葉があり、どちらも春
 に綿毛に包まれて伸びる。胞子葉は夏に
 枯れる。山菜として親しまれている。



クサソテツ【草蘇鉄】 イワデンダ科
 山菜のひとつ。東北ではコゴミと呼ぶ。
 走出枝を出して群生する。胞子葉は秋
 から冬に熟す。日当たりにも生え丈夫。



クジャクシダ【孔雀羊歯】 ホウライシダ科
 アジアンタムの一種で園芸店にも出回
 っている。孔雀が羽を広げたような姿が
 美しく人気がある。園内では、杉林内や、
 河川の岩場に自生している。



コウヤワラビ【高野蕨】 イワデンダ科
 湿地を好む。栄養葉は海藻状。胞子
 葉は玉状で、面白い草姿となる。園
 内での自生は少ない。



コタニワタリ【小谷渡り】 チャセンシダ科
 葉面基部は心形で、耳状に張り出す。表
 面には光沢がある。裏面のソーラス(胞
 子葉)は線形。



シシガシラ【獅子頭】 シシガシラ科
 園内通路沿い(特に北遊歩道)の斜面
 に多く自生している。斜面方向に葉が
 垂れ下がる様子を獅子のたてがみに例
 えたのが和名の由来との説がある。



トクサ【砥草】 トクサ科
 スギナ(ツクシ)も同じ仲間。茎
 は枝分かれしない。砥石のように
 物を磨くことができることから
 「砥草」。地下茎で増える。



トラノオシダ【虎の尾羊歯】チャセンシダ科
 園内ではシャクナゲ園の石組みの間
 から生えていることが多い。胞子葉を
 つける葉は長く伸びて栄養葉は短い。



ニシキシダ【錦羊歯】 イワデンダ科
 茎はあまり伸びず、株元から葉が出るよ
 うな樹形になる。変異が大きく葉が大き
 いものや小さい個体がある。イヌワラビ
 の変種。



ヒカゲノカズラ【日陰鶴】ヒカゲノカズラ科
 日陰の名があるが、日当たりを好む
 蔓性のシダ。園内ではWCの南側で見
 ることができる。針状の細い葉が杉の
 枝を思わせる。



フユノハナワラビ【冬の花蕨】
 ハナヤスリ科
 小型の冬緑性シダ。中央通路南に多く
 自生している。胞子葉は栄養葉より長
 い。胞子は秋から冬に熟す。



ホソバトウゲシバ【細葉峠芝】
 ヒカゲノカズラ科
 園内では、東屋北の傾斜地に自生し
 ている。常緑性で、ムカゴで増える。
 葉が広いタイプもあり総称してト
 ウゲシバという事が多い。



ベニシダ【紅羊歯】 オシダ科
 春の新芽は全体的に紅色を帯びる。キ
 リシマツツジ植込み内に多く見られ
 るのは、苗の株元についてきたものと
 思われる。



ジュウモンジシダ【十文字羊歯】 オシダ科
 最下部の羽片だけが大きくなり、葉の形
 が十字型に見えるので一目で分かる。園
 内では北遊歩道杉林内に普通に自生し
 ている。



ヤマイタチシダ【山鼬羊歯】オシダ科
 葉柄には黒くて太い鱗片が多く生
 え、最下羽片基部の下向き小羽片
 が長いのが特徴。常緑性。



ワラビ【蕨】 コバノイシカグマ科
 根茎は地中を長くはって、群落をつ
 くる。四季の散策路(花壇側)に生えて
 いる。日当たりを好む。代表的な山菜
 のひとつ。